

第8回 体の動きを高める運動領域部会

参加者 河野 古川 畠中 岡田 藤原 大川 山本 坪根 藤井 鈴木 小木曾 高橋 横山
常任理事 高草木先生 黒澤先生

1 常任理事から（高草木先生）

夏季休業に入ったため時間に余裕があるので、丁寧に協議を進めていきましょう。

2 夏季合同研究会について（畠中）

○当日の次第

- ①開会
- ②研究報告 発表：岡田 操作：古川
- ③協議 45 分間
- ④今後について 河野部長

○研究報告について

誰が操作を行うか → 藤原
参会者の意見をチャットで打ち込んでもらう。

○協議について

当日の参会者の人数が予想できないので、ブレイクアウトルームは、副部長代理の2名と決めず、ブレイクアウトルームの司会をする可能性のある部員の人数を拡張する。ブレイクアウトルームを何グループに分けるかは、当日の参会者の人数次第で決める。

○協議細案

■協議の視点

- ・領域の特性に応じた学習過程について
- ・第1回目実証授業について
- ・第2回目実証授業について

■ブレイクアウトルームの様子を各チームから報告

3 抄録について（河野部長）

- 1 研究主題の設定理由を受けた部会の考え方
- 2 研究の視点1「子供一人一人が自らの学習課題を見いだすための手立ての工夫」
 - （1）体の動きを高める運動領域における学習課題の捉え方
 - （2）研究主題に迫るための工夫
- 3 学習指導案（第5学年 岡田実践）

- (1) 学習過程
- (2) 本時の学習

4 第2回実証授業について

- (1) 実施学年、実施単元、実施学校、授業者等
- (2) 第2回実証授業で明らかにしたいこと

4 部会資料について（河野部長）

1 研究の内容

(1) 研究の視点

①体の動きを高める運動における学習課題の捉え方

- ・体の動きを高めることの目的に関する学習課題
- ・体の動きの高め方に関する学習課題
- ・自己の取組を修正、活用する学習課題

②研究主題に迫るための工夫

ア 一人一人の子供が学習課題を見いだす手立ての工夫

【運動との出会い】【問いの分類】【学びのロードマップの作成】

イ 体の動きを高める運動領域部会における学習指導の工夫

【教師の働きかけの明確化】

【第5学年の基となる学習過程の作成】

- ・3～6時間目は、「巧みと力強さ」のように「要素を絞る」
- ・7～10時間目は、4要素の運動から児童が選択できるようにする。

【新たな運動例の開発】

- ・工夫の善し悪しが分かりやすい運動
- ・高まる動きが明確である
- ・運動の楽しさを味わうことができる
- ・高まりの実感がしやすい

2 学習指導案

- (1) 単元の目標
- (2) 単元の評価規準
- (3) 学習過程
- (4) 単元の指導と評価の計画

※作成の仕方は、河野部長が調査研究部に尋ねる。

5 特設チームの進捗確認

【学習カードチーム】

A3一枚だと記入欄が狭くなるため、ユニットごと1ページにする。そして、学習カード兼ロードマップというデザインで検討中。

【アプリチーム】

試作品づくりを通して、スムーズにアプリの完成を目指す。

【運動開発チーム】

分かりやすい運動例と、コースでねらうことを整理していく。

6 次回の部会

7月28日（水） 17:30～ Z o o mにて

- ・部会資料最終確認
- ・プロモーションムービーの確認
- ・プレゼン資料

7 まとめ

横山先生

部会資料を見て。従来の考え方と、これからの考え方を比較してある部分は分かりやすい。どのような言葉を用いて分かりやすく説明するのか精選していきたい。

高草木先生

充実した部会だった。夏季合研のイメージができてきた。Zoom による提案になるので、何重にも策を講じておくように。

黒澤先生

次回までに大枠をまとめておくとうい。学習過程の後半部分、何を活用するのかを明確にしておくとうい。